



こうして使節団一行はワシントンからボルチモア・フィラデルフィアを経由してニューヨークへ向かうこととなった

では仕方ない修理を待ちながらニューヨークまで行きましょう…

歓迎委員
デュボン大佐

そう言われても…各州では日本の使節団を招きたいと準備しているのです

それにナイアガラ号は今修理中ですし船体が大きいのでニューヨークにしか…

我々は使命を果たしましたので一刻も早く日本へ帰りたいのです

正使 新見豊前守



幕末に世界一周 やってみた

9

素毛の記録である「亜行航海日記」は現存する記録としてはワシントンまでの記述部分しかない
帰国して「亜行航海日記」をもとに「亜行周海略日記」を編纂した

しかし案ずるなかれ！
帰国してまとめた「亜行周海略日記」にはちゃんんと帰国までを書いておるぞ！

じゃがわしの書いた「亜行航海日記」はワシントンまでしか記録がないのでここでおしまい！

ええ~~~~~!!

ガーン

構成 川合登志和
漫画 秋桜



両人の名を記し掟を読み聞かされたのち夫から妻の紅差し指(薬指)に指輪を渡し首に飾りをつける

アメリカでは男は十五歳以上になると結婚したい女性の両親に挨拶に行き了解を得られれば婚約その後三、五年往来しながら相手の良し悪しを見極め夫婦となるそうじゃ

素毛の記した記録にしては珍しいものがひとつあるそれが…

結婚式の記述である

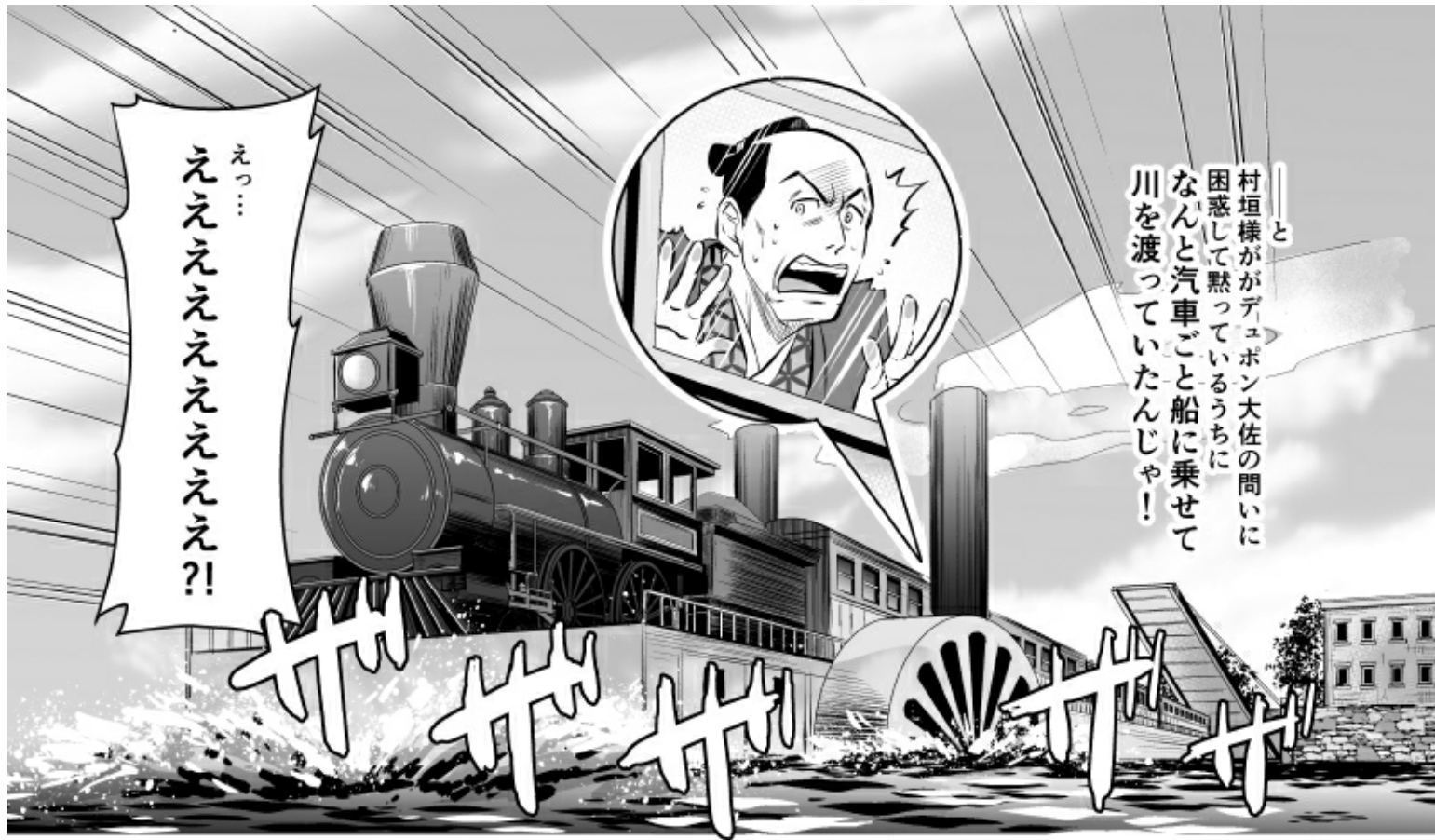


※友吉=通詞・名村五八郎の従者・片山友吉と思われる



↓ほしぎあざてこの後 監獄の小學愚教師にぞつれる





と
村垣様がデュポン大佐の間に
困惑して黙っているうちに
なんと汽車ごと船に乗せて
川を渡っていたんじゃ!

えっ…
ええええええええええええ?!



通訳
ポートマン

いつもそうではありません
日本人が初めて海を渡って
我が国に来てくれたのを
祝つての事ですよ!

だそうじゃ



ところが中には
居眠りしてこの列車フェリーの
渡河に気づかなかつた者もいるらしい

ぐおー!



おおーっ!
これは…



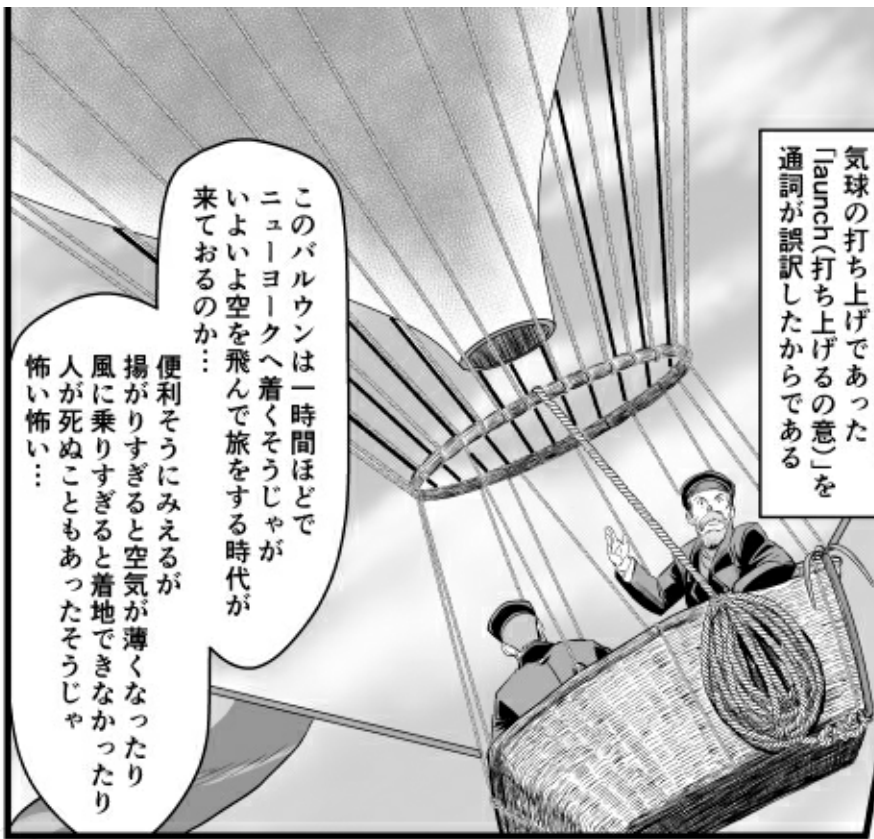
わしと小栗殿は
造幣局へ行く予定であるし…
従者の者に行つてもらおう



フィラデルフィアへ到着して
数日後のこと

進水式?
船のか?

はあ…
ぜひ出席してほしいと
申ししております



実際には船の進水式ではなく
気球の打ち上げであった
「launch(打ち上げるの意)」を
通詞が誤訳したからである

このバルウンは一時間ほどで
ニューヨークへ着くそうじゃが
いよいよ空を飛んで旅をする時代が
来ておるのか…

便利そうにみえるが
揚がりすぎると空気が薄くなったり
風に乗りすぎると着地できなかつたり
人が死ぬこともあつたそうじゃ
怖い怖い…



上役の方々はこれを見られず残念だなあ!



つきな
月那ら天風船高し夕満久連

素毛にとって
この気球は印象に残つたらしく
帰国すると気球の風景と俳句を
版画にして親せきや友人に配つた

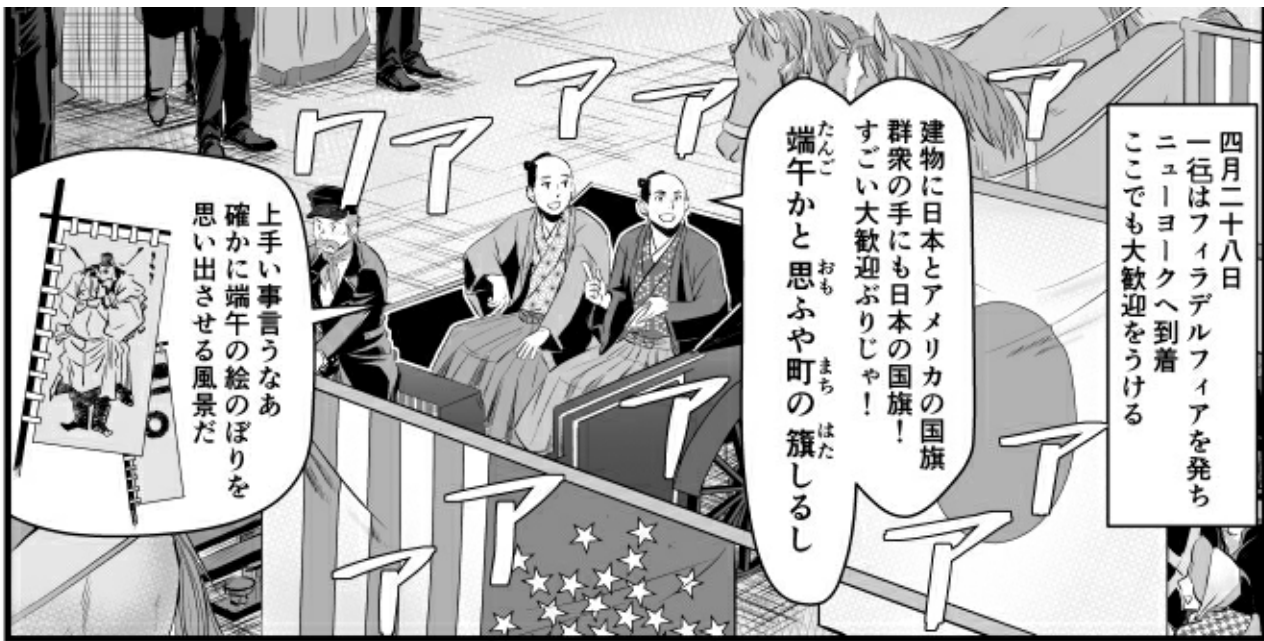


綺麗じゃのう…
街並みのから春尔移る花火哉

短い滞在ではあつたが
ニューヨークへ発つ前日には
蒸気消防車のパレードと
花火の打ち上げがあつた



フィラデルフィア滞在中には
日本人の部屋に押し掛けた者が
ピストルを暴発させて
その場にいた日本人が思わず
抜刀したという事件や
トミー君がアメリカ人の女の子に
付け回されたりしたトラブルもあつた



四月二十八日
一行はフィラデルフィアを発ち
ニューヨークへ到着
ここでも大歓迎をうける

建物に日本とアメリカの国旗
群衆の手にも日本の国旗！
すごい大歓迎ぶりじゃ！
端午かと思ふや町の旗しるし

上手い事言うなあ
確かに端午の絵のぼりを
思い出させる風景だ

ニューヨークに到着後
三使は市長を訪問
従者らは買い物などをして
過ごしていた

ニューヨーク出発が近づいた
ある日伊勢屋チームは
海軍造船所に停泊している
ナイアガラ号へ行き
ワシントンから送った荷物の
検分を行った

一方三使は
ペリー夫人宅を
訪問する機会が
あった
今回の訪米も提督の功績です
健在でいらしたらどんなに
お喜びだったでしょう…

お
お
日本の犬の
狎
狎ですな
この子はペリーが
日本から連れてきた
子です
あなたたちに会って
日本の匂いを
思い出したかも
しれませんね

※伊勢屋チーム素毛はじめ伊勢屋手代の者たち

さて明日はいよいよアメリカを出発する
その前にパナマ鉄道の運賃や
ワシントンからの滞在費を精算せねばな

とんでもない！
費用はすべてアメリカ政府が
持つことになっております！
大統領からも
好意だけ受け取るようにと
言われておりますので！

……
え？
同じころ成臨丸の軍艦奉行・木村撰津守から
三使へ手紙が届いた
成臨丸は使節団がニューヨークを出発する
六日前に無事品川に到着していた

第10話へ
つづく

次回予告

長かったアメリカ滞在も終わり
次回からは日本への帰路の旅に
なるんじやが
これがもうしんどくてな…



造幣局へ行った正使・新見様と
監察の小栗様は小判などの成分を
調べてもらったそうじや
金や銀の含有量から正しい
レートが判明したわけだが
このあたりの話をし出すと
スペースが足りないなので
省略するとして
分析に時間がかかる中忍耐強く
待っていたその姿勢は
新聞でも報じられ感心された
そうじやよ
あと余談じやが待っている間
従者たちはアメリカ側の職員と
計算対決をしていたのだが
その計算の速さや正確さに
驚かれたそうじや

歌でも歌つとらんと
やつとれんくらい
だったわ



歌のフダきは坂号の月

Great!!

